

2019 年度日本フンボルト協会第2回常務理事会議事録

日 時: 2019 年 8 月 31 日(土) 14 時~17 時

場 所: 京都府立医科大学 基礎医学学舎 第3会議室

出席者: 伊藤 眞(理事長)、縣 公一郎(副理事長)、西川 伸一(副理事長、関西支部長)、
井田 良(関東甲信越支部長)、岡林 洋、坂越 正樹(中四国支部長)、櫻田 嘉章、高橋 宗五、
高橋 義人、高山 佳奈子、種村 眞幸、鏑田 武志、広渡 清吾、伏木 信次

審議事項

(1) 来年度の総会について

1) 来年度総会は、以下の要領で開催することが承認された。

伏木信次常務理事のご尽力で予約済。

日 時: 2020 年 6 月 6 日(土)

場 所: 京都府立医科大学 メイン会場は図書館ホール

2) 具体的プログラムについては、別紙資料に基づき、概ね例年通りの企画及びスケジュールで、以下の要領で開催されることになった:

総 会: 13:20-14:00

講演会 14:00-15:00

留学説明会、談話会(仮称) 15:00-17:30

コンサート: 17:30-18:00 (その後、砂原 悟 さんのピアノ独奏をお願いできた)

懇親会: 18:00-20:00

3) 留学説明会については、鏑田常務理事(委員長、理系担当)、岡林常務理事(副委員長、文系担当)の体制で行うことになった。

4) 今年度総会の改善点などを踏まえ、総会参加者の懇親会参加率を向上させるために、留学説明会と同時帯に、留学説明会に参加しない会員のための正式な企画(例えば談話会やワークショップなど)を検討することになった。また、例年行われる講演会については、多くの参加者が見込める講演候補者を、協会内外を含め選定することになった。留学説明会と併行して行われる企画および講演会演者については、関西支部を中心に具体的な検討および人選を進めることになった。

5) 懇親会会場は、京都府立医科大学附属病院風花(2015 年度と同会場)を軸に、会費、参加人数などの具体的な 調整を伏木常務理事の協力を得ながら事務局で行うことになった。

6) 関西開催ということもあり、ドイツ総領事を総会関係の何らかの行事に招待する方向で検討することになった。

(2) 新常務理事の所掌について

資料に基づき、伊藤理事長から各委員の提案があり、常務理事の所掌は、原案通り承認された。

(3) 日独共同研究奨学金について

1) 当初の目標額の総額 1200 万円(奨学金基金 1000 万円、財政安定化基金 200 万円)を達成することができた。内訳などは別紙資料参照。

- 2) 募金期間は9月30日までなので、引き続き募金活動を継続することとなった。財政安定化基金の当初目標の 200 万円は、当面の目標であり、中長期的には協会財政のさらなる安定化を図る必要があることから、会員には、一層の支援を要請することになった。
- 3) 会費支払者(400名、会員総数 1500名)と比較しても会員の寄付者(205名)は、必ずしも多くはないので、ニューズレター送付時に、会員からの募金を引き続き募ることになった。会費未納者と募金未納者には会報送付時に振り込み票を同封する。
- 4) 将来的な寄付の仕方(4000円(通常会費)+ 上乗せ金(寄付金:1000円)を一括して振り込んでもらう)についても検討することになった。
- 5) 寄付期間終了後も、財政安定化のための寄付を継続するかどうかは引き続き検討することとなった。
- 6) 募金を支払った会員については事前の了解確認はせず氏名のみを掲載。外部(企業)については名前掲載の可否を問い合わせ、了承を得てから掲載することになった。
- 7) ご支援を頂いた外部企業に対し、選考結果の報告とお礼の通知を送付したことが報告された。(別紙資料 10-9)

(4) 日独共同研究奨学金選考委員会(2020年度)について

- 1) 奨学金選考委員会規定のより、伊藤理事長から 2020 年度同委員会の委員長として西川副理事長が指名され、西川委員長から同奨学金選考委員会委員が提案され、原案通り承認された。
- 2) 本奨学金公募開始(本年 10 月)に合わせて、一般の研究者向けに、HP に掲載する募集要項の記事を、西川委員長が鐺田HP委員長と調整しながら掲載することになった。

(5) 日独共同研究奨学金授与式(2019年度)について(報告)

- 1) 同授与式を以下の要領で行うことになった。(その写真を会報に掲載予定)
助成対象者: Frau Meng-Cheng Lee 氏、田中慎氏(申請者)
日 時: 9月 12 日(木) 11 時
場 所: DAAD 東京会議室
- 2) 助成対象者: Mario Varga 氏、赤木剛朗氏(申請者)の授与式は、Varga 氏のドイツの大学への採用決定など想定外の事情があり、赤木教授との調整の結果、先方の事情を考慮し、例外的に来年 3 月に授与式を行うことになった。
共同研究については、当初のスケジュール通り、9 月から開始してもらうよう依頼済み。

(6) 日独共同研究奨学金基金と財政安定化基金について

- 1) 奨学金基金は、当初の目標額 1000 万円に到達したので、10 年間の予定で運用する。
- 2) 財政安定化基金の位置づけについて
 - * 本基金規定第 1 条に、「通常会計の安定化を図るため、不時の支出にそなえ、かつ、通常会計によってまかなえない事業の費用にあてることを目的とする。」と謳われていることから、本基金 200 万円は、自動的に一般会計に組み入れるのではなく、特別会計として別枠で財政安定化基金口座に積み立てておき、必要に応じて通常会計に組み入れることになった。(そのための口座はすでに開設済み。)
 - * 本基金を一般(通常)会計に組み入れる際には、財政安定化基金管理規定4項に基づき、財務担当(高橋宗五常務理事)が、必要に応じて原案を常務理事会に提案し、同理事会で審議・承認した上で執行する。

- * 日独共同研究奨学金制度の小冊子などの作成費、振り込み手数料等は、現状では一般会計(予備費)から借用しており、これら奨学金制度を運営するための必要経費については、上記のように、財政安定化基金から一般会計に組み入れる手続きに則り執行することになった。

(7) その他

1) 日独共同研究奨学金WGのあり方について

伊藤理事長から、本奨学金WGは、奨学金の具体的な案を作成するにあたり、常務理事会での承認を得て、理事長、前理事長、副理事長を構成員として設置されたが、本奨学金が正式にスタートしたことで当初の役目を終了したといえる。しかしながら、今後、協会および奨学金基金などの運営等について、常務理事会で検討するための原案の作成、議案の整理のために、必要に応じて、理事長経験者を含めた理事長、副理事長からなるWGを開催したい旨の提案があり、了承された。なお、WGの名称は、引き続き検討することになった。

2) 日本フンボルト協会ロゴ作成について

ドイツ・フンボルト財団本部のロゴを日本フンボルト協会が使用するの是不適切との財団本部からの指摘を受け、本協会として新たにロゴを作成する件が検討され、審議の結果、「日独学術交流」、「世代間交流」、「協会各支部」などのコンセプトを出来るだけ生かしたロゴを、常務理事会で検討することとなった。本件については、西川副理事長と岡林常務理事が、関係者の協力を得て複数の候補案を作成し、次回常務理事会で提案することになった。

3) 支部活動について(意見交換)(助成金の検討、名簿発行などについて)

- * 協会財政逼迫の状況で、従来のように、各支部への助成金について定額配分がよいのか、あるいは各支部からの当該年度の活動方針に基づき予算請求をしてもらい、常務理事会で審議したのち、予算を配分する方式にするのかについて意見交換がなされた。ただ、後者の場合、支部活動の低下を来すことが懸念されることもあり、今後の各支部の状況を見ながら引き続き時間をかけて検討することになった。
- * 関東甲信越支部:フンボルト協会への帰属意識の喚起のために、紙媒体の名簿をつくってはという支部幹事からの提案が紹介され、意見交換がなされたが、費用対効果が小さいとの意見が出された。また、紙媒体の名簿作成の前に、フンボルト財団本部のデータベースをまず活用してほしいなどの意見が提示された。
- * 中部支部:留学説明会を12月か1月に企画。名大の事務も巻き込んで実施予定。6月に支部総会を行ったが、参加者が固定されてきているので、先ほどのフンボルト本部のデータベースの活用は重要かと思う。
- * 関西支部:支部として留学説明会を企画。北海道の成功例を参考に大学単位でやることを企画。大学のネットワークをきちんと作ることを模索中—京大の中でもフンボルティアーナのネットワークがないので、まずそれを構築していきたい。ドイツの状況を伝えられるような状況をつくりたい。コンタクトができる人の名簿をつくり直したい。
- * 中四国支部:地域が広いので会員が集まるのが難しい。同窓会誌のようなものをつくるようなネットワークの構築が主な活動。メールを活用したいので、事務局から支部長に対し支部会員のメールアドレスなどのデータを提供してほしい旨の希望が出された。また、助成金は大変助かっているが、執行しきれない分もあるので返納するか、次年度、余剰分を削減するなどの方策が考えられる。本協会では、協会に対するシンパシーというよりは、お世話になったドイツへの恩返しの意味で参加している人が多く見受けられるので、帰属意識を促すためには、同窓会的なイベントなら参加しやすい。

4) フンボルト財団理事長 Prof. Dr. Pape さん来日について

10月27日、28日の両日、Pape 理事長が来日し、東京の各研究機関の訪問、および夕食会を行うことになり、日本フンボルト協会も対応することになった。

5) 本協会員の受賞について

本協会員が以下の通り、各賞を受賞されたので、伊藤理事長から祝意をもって披露された:

Alumni Award: 京大 原田大樹先生(法学)

2019 Reimer Luest Preis: 九州支部長 河野俊行先生

2019 Seibold-Preis 受賞: 縣 公一郎副理事長

6) 2021 年度の Humboldt-Kolloquim について

ドイツ・フンボルト財団本部が主導し、2021 年 11 月に東京で実施予定。財団本部からの情報を待って、本協会も協力する予定。

7) ニュースレターについて

本年度のニュースレターの準備状況について、事務局(関さん)から、日独共同研究奨学金授与式の写真および会員内外の募金者名を掲載予定であることが報告された。併せて会員のデータベースの更新を行う必要があるため、データ確認のための用紙をニュースレターに同封することが報告された。

8) 次回常務理事会の会場

日 時: 12 月 21 日(土) 14 時から 17 時

場 所: 名古屋工業大学(予定) 種村常務理事にお世話をお願いした。

* テレビ会議の希望が東北支部から寄せられており可能性を検討することとなった。

9) 会員のメールアドレス

支部活動活性化のための一環として、希望に応じて支部会員名簿(エクセルファイル)を事務局から各支部長に送るので、取り扱い注意で役立てることになった。

10) フンボルト奨学金の採択状況について

2018 年は、日本人の採択者/応募者は 10 名/37 名であった。本協会及び支部も含めて留学説明会をし、一時的に数値が上昇したが、長期低落傾向が続いている状況を踏まえ、何らかの方策を検討する必要が再確認された。

以上